審査結果の要旨

氏名　　池田 真美

本研究は肝臓外科の手術手技発達の歴史において、従来ながらの肝離断方法ながら、golden standard である Clamp Crushing で離断を行った群(CC 群)と、新しく開発された vessel sealing system の中で Liga Sure™ Precise を用いた群(VS 群)と肝離断時間の比較をするため、randomized control study を行った。

下記の結果を得ている。

1. 2006 年 2 月から 12 月までの期間に東大病院肝胆膵外科で行った肝切除 165 人中、除外対象の 45 人をはずした 120 症例を CC 群と VS 群の 60 例ずつに振り分けた。背景因子に統計学的有意差はなかった。
2. 主要評価項目である肝離断時間について、VS 群の中央値は 57［11-127］分、CC 群は 56［9-296］分であり、VS 法は肝離断時間の短縮に関して有用でないとの結果を得られた。同様に副次評価項目である出血量、離断速度などにも有意差はなかった。
3. 両群共に重篤な合併症はなく、術後合併症についても有意差はなかった。理論的に胆管の sealing が VS 法では不十分である可能性があったが、胆汁漏発生頻度に有意差はなく、(CC 群安全であると考えられた。
4. 本研究は positive study ではなかったが、デザインのしっかりしたランダム化比較試験を遂行し、積み重ねることが肝離断法の改善、そして肝臓外科の進歩の布石となると考えられる。

以上、本論分は肝臓外科の分野において、手術法の歴史に貢献をなすと考えられ、学位の授与に値すると考えられる。